

# 令和7年度(2025年度) 第1回函館市社会教育委員の会議 会議録

1 日 時 令和7年(2025年)10月2日(火) 14時00分～15時30分

2 場 所 函館市役所8階第1会議室

3 内 容

(1) 報 告

- ア 令和7年度(2025年度)社会教育事業概要について
- イ 第45回北海道市町村社会教育委員長等研修会参加報告

(2) その他

講演「障がい者の生涯学習推進について」

講師 北海道教育庁 渡島教育局教育支援課 社会教育指導班

主査 松田 夕紀 氏

4 会議資料

- (1) 会議資料1 社会教育委員について
- (2) 会議資料2 令和7年度(2025年度)社会教育事業概要
- (3) 会議資料3 第45回北海道市町村社会教育委員長等研修会開催要項
- (4) 会議資料4 障がい者の生涯学習推進について
- (5) 配布資料1 座席表
- (6) 配布資料2 令和7年度 市立函館博物館企画展  
「知られざるオホーツク海先史文化紀行」
- (7) 配布資料3 函館市社会学級のご案内
- (8) 配布資料4 国宝土偶発見50年記念事業クリアファイル
- (9) 配布資料5 はこだて男女共同参画フォーラム2025  
笑って考えよう！家庭のこと・仕事のこと・未来のこと  
～男性の家事が社会を救う～
- (10) 配布資料6 共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

5 出席委員 13名

池田孝道委員長、田上悟委員、木谷隆史委員、佐紺攝子委員、  
西澤勝郎委員、鈴木利治委員、佐々木香委員、小泉亜希子委員、  
佐藤裕美委員、高橋睦委員、坂本孝雄委員、中川祥子委員、  
佐々木幸夏委員

6 欠席委員 2名

外崎紅馬委員、善本至委員

7 事務局出席者 10名

土生明弘生涯学習部長、宮田至生涯学習部次長、長濱未亜生涯学習  
文化課長、長尾久美子スポーツ振興課長、岩井丈フルマラソン担当

課長，木村元子文化財課長，加藤秀紀歴史文化資源保存活用担当  
課長，黒田育生博物館長，葛西暁子生涯学習文化課主査，若狭佑介  
生涯学習文化課主事

## 8 発言要旨

葛西生涯学習  
文化課主査

### 1. 開会

ただいまから、令和7年度(2025年度)第1回函館市社会教育委員の会議を開会いたします。

まず、はじめに、委員の出席状況について報告いたします。

本日の委員の出席状況について、委員15名中13名のご出席をいたしております。函館市社会教育委員の会議規則第5条第1項の規定に定める過半数に達しておりますことから、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

### 2. 生涯学習部長あいさつ

土生生涯学習  
部長

—生涯学習部長 あいさつ—

### 3. 委員紹介

前回の会議から委員に変更があったことから、委員の皆様を紹介します。

—委員紹介—

### 4. 事務局職員の紹介

次に、教育委員会事務局職員をご紹介いたします。

—事務局職員 紹介—

議事に入ります前に、生涯学習文化課長より、函館市社会教育委員の会議について説明いたします。

—会議資料1に基づき、社会教育委員について説明—

### 5. 報告

(1) 令和7年度(2025年度)社会教育事業概要について

それでは、報告に入らせていただきます。

まず、報告(1) 令和7年度(2025年度)社会教育事業概要につい

長濱生涯学習  
文化課長

池田委員長

各課長

て、事務局より説明願います。

－次の順に、資料2に基づいて説明－

- ・ 生涯学習文化課
- ・ スポーツ振興課
- ・ フルマラソン担当
- ・ 文化財課
- ・ 歴史文化資源保存活用担当
- ・ 博物館
- ・ 各教育事務所（生涯学習文化課長）

池田委員長

ここまで説明に関して何かござりますか。

各委員

－意見なし－

池田委員長

特に無いようですので、報告（1）を終わりといたします。

ここで、スポーツ振興課長、フルマラソン担当課長、文化財課長、歴史文化資源保存活用担当課長、博物館長は退席いたします。

## （2）第45回北海道市町村社会教育委員長等研修会参加報告

池田委員長

本研修会は北海道社会教育委員連絡協議会が主催する研修会で北海道内の社会教育委員長や社会教育関係者を対象に毎年7月に開催されており、今回は北海道内110市町村から計184名の社会教育委員や行政関係者が参加しております。

内容といたしましては、北海道大学高等教育推進機構の平田未季氏から、「北海道における外国人受け入れの現状と地域社会における共生の取り組み」と題しまして基調講演をいただいたほか、翌日には、初日の講演を踏まえ、事例をもとに多文化共生社会について考えるグループワークも行われました。

それではまず、若狭主事から、基調講演について、報告をお願いします。

若狭生涯学習文化課主事

はじめに、今回の研修会は「北海道における外国人受け入れの現状と地域社会における共生の取り組み」と題した研究主題となっており、地域に住む外国人と共生していくためにはどうするべきか、現状と課題を踏まえながら課題解決を図るために社会教育委員が果たしていくべき役割等について学ぶ場として、開催されました。

基調講演では、現在の日本国内および北海道での在留外国人は増加傾向にあること、また、多様化の現状が発生している要因や発生している課題、課題解決に向けたアプローチ手法などについて、講

演が行われました。

講演内容の要旨といたしましては、地域に住む外国人と共生していくために、課題となっていることとして、

- ・日本語能力の低い外国人が増加し、コミュニケーションの難しい近隣住民となることにより、生活に不安が生まれている
- ・災害などの有事が発生した際に、地域に住んでいる外国人が避難所を把握しているか、地域住民が外国人の人数や居場所を把握しているか、連携を図ることができるのか、不安がある地域が増えているなどの事例が挙げられ、日本語教室がある自治体は、北海道内では19市町村にとどまっており、在留外国人との多文化共生の推進が進んでいない現状があるといった内容でした。

また、地域において、このような事例に対応するために、大切なポイントとしては、

- ・日本語教育を強制するのではなく、日本語を学ぶことのメリットを在留外国人に享受させることで、日本語習得の大切さを自覚してもらう。
- ・地域活動の中において、外国人を包摂する意識を持って取り組むことで、在留外国人が気軽に地域・社会に参加できる環境を整備する。
- ・災害などの有事に備え、平時から顔の見える関係を作り、他人ではない関係性で、対応に当たれるようとする。

などが挙げられたとともに、これらの事項を、日本語学習として捉えるのではなく、日本語社会における、社会教育として認識することが、重要である。とのお話がありました。以上です。

池田委員長

グループワークにつきましては、私から説明いたします。

私が参加したグループは、大空町社会教育委員長、猿払村社会教育委長、伊達市社会教育委員会議長、広尾町教育委員会社会教育課係長、歌志内市教育委員会社会教育担当主事と私の6名でした。

グループワークのテーマは、「事例をもとに多文化共生社会について考える」と題し、基調講演の内容を踏まえ、グループワークを行いながら、いくつかのエピソードの中から、議題を選び、協議・意見交換を行うといったものでした。

選択議題のエピソードの1つには、「回覧板が回らない?」という主題で、町内の外国人世帯で回覧板が止まってしまい、その外国人は「日本語が読めない」「どうすればよいかの説明がなかった」と言っており、その結果、今後、回覧板をどうするべきかの議論となっています。といった内容でした。

このエピソードについてグループ内で話し合ったところ、

- ・町内会という制度自体が日本独特の文化であり、そもそも外国人の方に理解をしてもらうにはハードルが高い。
- ・理解してもらえないからといって回覧板の機能を停止しようとい

うことには繋がらない。なぜなら回覧板は情報共有以外にも生存確認の役割があるからである。LINEなどの情報共有ツールを導入するなど、ほかの方策を考える必要がある。

・古くからいる役員だけで運営をしている町内会も少なくない。限られた人にのみ役割が分担され、町内会そのものが形骸化している実態もあるのではないか。

などといった意見が出されました。

その他にも、「団地のトラブル」、「治安の悪化?」、「外国人にも交流会に来てほしい」などの選択議題があり、これらのエピソードに対する話し合いの中で、

・外国人に限らず、日本人同士でも近所における関係性が希薄になっているのではないか。

・外国人、日本人の関係において、互いの生活・文化の理解ができれば多少の騒音等は我慢できるはずである。そのため、誰でも簡単に参加できるシンプルなイベント等を企画すれば、言葉がわからなくても気持ちの交流ができるかもしれない。

・自国の料理を持ち寄るといった食べ物の文化交流などのイベントがあれば住民も興味を持ち、技能実習生にとってもモチベーションが上がり、交流が深まるのではないか。

などの意見が出され、それぞれの事例や課題について、背景事情を把握し、課題解決に向けて対話するなど、相互理解や歩み寄りの観点を忘れてはいけないことを再確認しました。

グループワークに関する報告は以上です。

池田委員長

研修会についての報告をさせていただきましたが、ここまで説明に関し、意見や質問などございませんでしょうか。

各委員

－意見なし－

池田委員長

特に無いようですので、報告（2）を終わりといたします。

## 6. その他

### （1）講演「障がい者の生涯学習推進について」

池田委員長

続きまして、その他といたしまして、「障がい者の生涯学習推進について」と題し、北海道教育庁渡島教育局教育支援課社会教育指導班主査の松田夕紀氏にご講演いただきます。

松田講師

－会議資料4に基づき、障がい者の生涯学習における現状と課題、北海道教育庁の障がい者の生涯学習推進施策等について説明－

池田委員長

ここまで説明に関して、意見や質問等はございますか。

中川委員

資料5ページ目に“障がい者の生涯学習推進上の課題が「ある」と答えた市町村の割合は96.1%とあり、ほぼ100%であると思われますが、障がい者は身体障がい者、発達障がい者、精神障がい者と種類があり、障がいの大小にも違いはあると思います。

学校卒業後、市内就労施設に勤めたとしても、作業への適応能力の差が、継続意欲に影響することや、就労施設の間口は広いが、就労移行支援制度には、利用期間が決まっており、安定した就労を確保するのが困難だという課題もあると思われます。

函館市内においても、同様の課題は発生しているのでしょうか。

松田講師

施設の運営については、分野が異なるため回答できませんが、私は渡島教育局に来る前に、養護学校の教諭を務めており、養護学校では、生徒と卒業後の勤務先のマッチングに最大限取り組んでいるところではありますが、学校と勤務先との違いや、楽しみの見い出し方について、生徒本人がギャップを感じてしまって、ストレスや離職に繋がってしまうという問題はあると思います。

このような課題解決に向けては、生徒に対し、どのようにアドバイスをし、手を差し伸べられるかということが大事になってくると思われます。生涯学習の視点からも、仕事の中にどのように楽しさを見い出せるか。働くことから得られる報酬を使って、自分がどのように楽しみを得られるか。など、私たちと同じような感性を学ばせていくということが、学校生活の中での重要な命題だと考えています。

また、就労施設の増加については、働きたくても働けない、待機状態の障がい者が減少しているという側面があり、喜ばしいことであると考えています。

池田委員長

資料「障がいのある方の学びの体制を構築するために」内で「社会教育施設で受入体制を整えるために」という表が記載されていますが、“障がいのある方も一緒に参加できる事業”を企画するにあたって、通常の社会教育施設であれば、障がい者の対応経験が豊富な職員は非常に少ないという実情があり、相手がどのような障がいを持っているのかの知識がない状態で、相手とどう接したらよいか、相手に負担を与えてはいけないのではないかという不安があり、理想とのギャップが生じていると思われます。

このような実情については、どう考えますか。

松田講師

池田委員からの質問について、「事業実施にあたって、どこまで障がい者に配慮をするべきか。」「どこまで準備をしておくべきか。」などの相談を受ける機会が多いですが、ハード面の整備を含めた100%の準備には、莫大な予算と時間を要し、受け入れ側が破綻してしま

うため、現実問題としては、不可能だと思います。

障がい者への「合理的配慮」という視点で考えると、解決策としては「対話」しかないと考えます。

車椅子利用者であっても、少しの距離であれば自力で歩けるかもしれないし、スロープがなくても、職員が持ち上げれば対応できるかもしれません。

これらの場合においては、利用者との対話ができていれば、専門的な知識がなくても対応は可能なため、知識を蓄えてから対応を考えるのではなく、現場で一緒に解決方法を構築していくことが大切だと思っています。

池田委員長

ありがとうございます。私の勤める施設は古い施設のため、ハーフ面での対応は難しいのですが、できることをやっていくことを大切にしながら、運営を図っていきたいなと思った次第です。

池田委員長

ほかに皆さま、何かございますか。

ないようですので、以上でその他（1）は終了といたします。

予定していた内容は以上でございますが、事務局から他に何かございますか。

葛西生涯学習  
文化課主査

函館市女性会議の佐々木香委員からも配布資料がございます。  
佐々木香委員、説明をお願いします。

佐々木香委員

はい。配布資料「はこだて男女共同参画フォーラム 2025 笑って考えよう！家庭のこと・仕事のこと・未来のこと～男性の家事が社会を救う～」について、こちらは函館市市民部市民・男女共同参画課と一緒に、私たち実行委員会が毎年開催している講演会となります。

今年の講師は東京大学で人気講義 No.1 に選ばれた瀬地山角さんをお迎えし、笑いを交えた子育てエピソードを聞かせていただく予定です。瀬地山講師は、奥様と一緒に子育てをされてきた方で、今回の講演会では、赤ちゃんや子どもたちも一緒に参加できる講義を予定しており、騒ぎ声や泣き声が聞こえてくるかもしれませんが、みんなで一緒に子育てをしているという感覚を、皆さんに感じていただければと思います。

配布資料「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道」について、こちらは北海道教育委員会主催の事業ですが、函館市女性会議のD E I & S アドバイザーとして HAKODATE COLLECTION（函館コレクション）に立ち上げから関わっていただいている鹿野牧子さんが講師を務めます。

これまでの3年間の HAKODATE COLLECTION について、私たちがどう障がい者と向き合ってきたのかということをお話させていただき

ますので、こちらもぜひ、たくさんの皆様にお聞きいただきたいと考えております。

池田委員長

ほかに皆さま、何かございますか。

以上で令和7年度(2025年度)第1回函館市社会教育委員の会議を終了いたします。

以上、令和7年度(2025年度)第1回函館市社会教育委員の会議の会議録とする。

委員長 池田 孝道